慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	福澤書簡の新資料(明治十一年二月九日付 杉孫七郎宛)
Sub Title	
Author	丸山, 信(Maruyama, Makoto)
Publisher	三田史学会
Publication year	1981
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.51, No.3 (1981. 12) ,p.80- 80
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19811200-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

61.0 センチメートル

17.4センチメートル

福澤書簡の新資料

（明治十一年二月九日付　杉孫七郎宛）

本年五月八日から開催された東横百貨店七階の「肉筆名品展即売会」に、福沢諭吉自筆のものと書かれているものが四点あった。すなわち、㈠福沢諭吉二行書で松村陽谷鑑の「誰道仏恩……」、㈡杉孫七郎宛明治十一年二月九日付、㈢俣野景明宛年不詳二月三日付、㈣本山彦一宛書簡三通まとめて一幅としてあるものである。㈡㈢ともに、『福沢諭吉全集』第十七巻、第十八巻書翰集㈠㈡および第二十一巻所収書翰補遺、『福沢諭吉年鑑』既刊分第一―七号までにも未収録であるので、ここに紹介する。

杉孫七郎宛書簡の本文は、次の通りである。

（原文の行がわりは斜線であらわした）

其後ハ久々不得拝顔時下／余寒尚強益御清安奉／拝賀候陳ハ小幡英之助／ハ兼而御懇命を蒙り候よし／此者ハ生が旧同藩小幡篤次郎／之姪なり不図歯之術を学／び得て当今ハ殆ト都下第一流／之名成したり仕合者ニ御座候／然ニ当人之意志何とかして／主上之御歯ニ御療治指上度／固より御無病之処へ御療治と申ハ／行（む）る遍きニ阿らざ連とも御無病／ならバ御無病之処ニ而御歯之／御掃除ニ而も仕度と申趣意ハ方今／一切万事外国人を御仕用／相成候折柄萬々一この一事／ニ付外人ニ先鞭を着けられてハ／英之助ノ不面目ハ姑く閣き日本ノ／歯医師全体之栄誉ニ関／レ残念至極と申熱心なり／何卒右之情実御賢察よき／機会も御座候ハ、可然御周旋／被成下度生も敢而英之助江／私するニ非ズ実ハ日本ニ／私するなり幾重ニも御含置／奉願尚い才ハ本人より可申上／候得共所望ニ任セ添書一筆／如此御座候頓首

二月九日　福沢諭吉

杉先生

侍史

尚以弊塾も旧冬劣姓中上川／彦次郎英国より帰着小幡／篤次郎も同伴本年よりハ／新聞紙ニ力を用るとの事なり／何卒御覧被下尚時々ハ御投書／も被下度新聞連中一統／之願ニ御座候以上

文中の「杉先生」は、杉孫七郎のことで、通称はじめ少輔、九郎、徳輔といったが、のち孫七郎と改む。山口藩士、明治大正の功臣。漢詩のうまい人物で、文久二年遣改使節派遣の折、小使としてヨーロッパ行に加わった福沢諭吉の仲間であった。その折は、徳輔といった時代である。福沢が書簡執筆したときは、杉は明治十年十二月より十五年十二月まで宮内大輔となっていた時代で、文面のような無理難題の手紙を書ける間柄であったと思われる。福沢諭吉の門下生への愛のきづなのあらわれた手紙である。㈡㈢ともに、服部礼次郎氏所蔵のものを拝見させていただいた。記して感謝の意を表す。

（丸山　信）

（一六二ページへつづく）